

# IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム

## 第 45 回会合 発言録

2024 年 2 月 19 日

【加藤】 それでは、まだお集まりにならない方もいらっしゃると思いますが、そろそろ第 45 回目の活発化チーム会合を始めさせていただきたいと思います。本日もよろしくお願いします。

最初に、アジェンダに沿って日本政府からの報告ということで、お名前をお見受けしたところ、片柳様、御紹介も兼ねて一言何かいただけませんかでしょうか。

【片柳】 お世話になっております。総務省データ通信課の片柳と申します。以前からこの会に参加させていただいておりますが、なかなか発言しなくて、すみません。

私のほうからですけれども、特に報告事項はございません。よろしくお願いいたします。

【加藤】 ありがとうございます。よろしくお願いします。その後、特に日本政府から御紹介いただくということはないということで、それで、もし何か御質問とかお言葉いただくことがあれば、後ほどでもよろしくお願いいたしますと思います。

引き続きまして、IGF の MAG からの報告ということで、河内さん、よろしくお願いします。

【河内】 すみません。聞こえますでしょうか。

【加藤】 はい、聞こえております。

【河内】 まず、2 月 6 日に第 3 回目の MAG の会合がありまして、その報告をさせていただければと思います。これは画面共有するほどでもないかな。後でテーマのやつは画面共有します。

ざっと言いますと、まず、来週 27、28、29 で対面の MAG の会合があるので、そのアジェンダについて事務局から説明がありました。1 つは、最初の日オープンコンサルテーションでは Leadership Panel との意見交換会があるということ。それから、あとは、メジャーな話題としては、1 月末まで行われた IGF 2024 のテーマについての意見募集についての結果がまとまっています、それについて報告がありました。それは後で御説明します。もうウェブに載っているので、皆さん見ていらっしゃるかもしれないですけれども。

あとは、来週の MAG の会合でのアジェンダとしては、IGF 2024 のプログラムについてディスカッションがあるということと、それから、インターアセッショナルワーク、NRI ワーキンググループの活動について、それから、今後、IGF の将来について、GDC とか WSIS+20 とかについて、Leadership Panel とどんなことを協力してやっていくかということを経験にするという話がありました。

このテーマに関する 1 月末までやった意見募集の結果ですけれども、これは今ホームページにあるんですが。画面共有させていただいてもいいですか。

【加藤】 画面共有していただいています。あれは山崎さんのですかね。

【河内】 はい。私、ちょっととらせていただきます。これで映っていますかね。IGF のホームページに載っていますので、見ていただければと思いますけれども。大丈夫ですか。

【加藤】 大丈夫です。

【河内】 これは PDF で今載っていますけれども、Results ですね。310 件の意見の提案というか、アンケート形式みたいになっていたと思うので、回答があったと。テーマとか 이슈とか延べにするこの数だということですね。

その下に行って、ちょっと小さいかもしれないですけれども、先に行くと 1 つ出ていますね。すいません。個人として回答したのか、それとも組織として回答したのかというところ。個人のほうがちょっと多いという感じです。それから、gender ですけれども、男性が 64%、女性が 35%。それから、stakeholder group としては、civil society が圧倒的に 44%、半分近くに行っているという感じです。それから、region としては、アフリカが 40% で圧倒的に多い。アジアパシフィックは意外に多いという感じですね。

それから、次に行ってテーマですけれども、結局、AI が 17%、cybersecurity/trust が 17%。その下は data governance とか rights and freedom とか “Universal Access and Meaningful.....”。何だったかな。忘れちゃいました。すぐ出てこないですけれども、こういう結果になっています。

それぞれの中身ですけれども、AI の中身としては、AI ethics、AI governance、AI risk、AI and data というような感じになっています。

それから、cyber security の詳細は、child online safety と“cyber attacks and cyber.....”。すいません。これもどこか見てみないと分からないですけれども、それが一番多くて、あとは大体同じような感じですかね。割とばらついている感じです。

それから、data governance ですけれども、data privacy が一番多くて、その後、data free flow、data localization、open data などとなっています。

それから、rights and freedoms ですけれども、human rights が 18%、“civil and political and.....”——ちょっと点々が分からないですけれども、あと gender とか freedom of expression、digital citizenship、Children's Right and Online とかそんな感じになっています。

それから、Universal Access and Meaningful Connectivity でしたね。ですけれども、access and connectivity が 25% で一番多くて、digital inclusion、capacity development、community networks、youth engagement などなどになっています。

あと、digital corporation。下を見ると、Broadening sh って何ですかね。engagement。すいません。Broadening、engagement。それから multistakeholderism、IGF organization and role とかいうことになっています。

digital corporation。これは去年で言うともあれですかね。グローバルデジタル何とかというテーマの 1 つですかね。この区分けは多分もともと事務局がして、あと選択式というような感じだったんじゃないかと思うんですけれども、区分けが去年とちょっと違う感じはします。

これは Emerging Technology and Innovation で、5G とかデータシェアリング、IoT、quantum computing とかになっています。

あと、environment ですね。もし御関心ある方は、ホームページ、IGF のページに載っていますので、見ていただければと思います。

あと、いろいろありますけれども、1 つ、これは 이슈で全部、トータルで順番に並べたみたいで、AI ethics が 1 番ですね。その次、AI governance、その次、data privacy、次、child online safety、それから、cyber attacks and cyber conflict、AI risk。AI がいっぱい入っていますね、あちこち。という感じになっているそうです。これはちょっと細かいので細かく見ないですけれども、region ごとに何が多かったかというのも全部統計を取ってというか、グラフにされています。

あともう一つ、最後に、これですね。今後の IGF についてに関わる場所です。WSIS+20 みたいなものだと思うんですけども、記述式でいろいろ書いてもらうところをつくったそうで、全部じゃないのかもしれないが、幾つかここに並べられています。The Contribution of IGF・annual meetings なので、IGF の年次会合がこれまでにどんな貢献をしてきたと思うかということについていろいろ書いてもらっているということです。

それから、もう一つは Overall Format and Design of the IGF。IGF の今後について、これからいろいろ 2025 年に向けて議論がある中で、どんなふうな形とかデザインとかがいいと思うかということも質問項目であったというふうに説明がありました。

ということで、こんな感じです。

【加藤】 どうもありがとうございます。河内さんへの御質問とか何かございますか。かなりもういろいろと議論が進み始めているという感じですね。

【河内】 そうですね。実際、来週対面会合があるので、対面会合で、このテーマに関する意見募集に基づいて、メインテーマとサブテーマをどうするかという議論をすることになると思うんです。多分、テーマはそこで決まると思うので、この結果を受けてみんないろいろどんなふうに思うかというディスカッションがあると思います。

すいません。でも、来週あるんですけども、実はあしたの夜、もう一回リモート会合があるので。でも、多分テーマを決めるのは対面会合だと思いますけれども、あしたも一応まだ、もう一回リモート会合があしたの夜ある予定です。

【加藤】 ありがとうございます。御質問よろしいですか。

昨年の例で言うと、今、細分化されたリストがありましたけれども、そういう中から 8 つのサブテーマとか、8 つになるのか今年幾つになるのかも含めて来週以降議論されるということですね。

【河内】 そうですね。あしたは多分そこまで行かないと思うので、テーマについての議論は対面会合のときですね。来週だと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

あと、この次のステップとして、今月末までに WSIS+20 の意見書を求める手続が進んでいるわけですけども、それについては MAG からはまだ何もコメントとか状況報告とかないんでしょうか。

【河内】 MAG としてというよりは、MAG の中にストラテジーというワーキンググループがありまして、IGF とかインターネット・ガバナンスに関して今後どうやっていくべきかとかどうあるべきかとかということを議論するワーキンググループが 3 年ぐらい前からあって、そこでこの WSIS+20 に対する意見を出すということで、もうその意見案が回っていて、このワーキングも今週の木曜日の夜に会合があるので、そこで最終的にフィックスして提出することになると思います。

【加藤】 ありがとうございます。繰り返しになりますが、どなたか御質問とか大丈夫ですか。では、河内さんがまだいらっしゃるのであれば、後で御質問があれば受けていただくということで。

飯田様のお名前を発見したんですけれども、もしよろしければ、日本政府からの御報告というか、その後のいろいろな動き、もし何かコメントをいただくなりあれば。飯田様、聞いていらっしゃいますでしょうか。お久しぶりでございます。

【飯田】 すいません。遅れて入りまして。御無沙汰しております。

もう既にお話が出ていたかもしれませんが、今、河内さんの MAG のお話もありましたが、来週、対面会合があって、残念ながら私は出られないのですが、オンラインで参加をして、去年の経験からのお話を簡単にさせていただくことになっています。

ほかのいろいろな地域会合でもお話したかもしれませんが、去年の京都の会合はすばらしかったという評価をあちこちでいただいているようですので、少しでもまた今年の IGF に役立てるように去年の話を紹介しようと思っていますので、こんな話をしたらいいんじゃないかみたいなことがあれば、いただければ織り込んでいきたいなと思います。

あと、CSTD の WSIS に関するコンサルテーションが月末までということでウェブに上がっているようですので、もし御関心を持っていただけるようだったら、ぜひコメントいただければと思います。

WSIS+20 という意味では、G7 で議論を去年して、25 年、非常にレビューが大事なので、みんなですっかりマルチステークホルダーによるインターネット・ガバナンスの仕組みを守っていこうという議論をして、それをアメリカの DFI、未来のインターネット宣言とも絡めて京都でセッションやったりしたんですけれども。そこから発生してというか、G7 の議論のときにもう既にそういうことになっていたんですが、G7 の間で Point of Contact Group というのをつくって、この議論を 25 年に向けてちゃんと意見交換して、協調して対応していこうという話を今しています。

これは取りあえずは政府間でやっているんですけれども、当然マルチステークホルダーでやっていくということになってきますので、また皆様に御紹介しながら、いろいろ一緒にできることがあればなというふうに考えていますので、また、まだ 1 回やっただけなんですけれども、これから作業が進んできたら随時御紹介をして、いろいろな形で共助、協働できればと思っております。

それから、今年、これはもう河内さんのほうからあったかもしれませんが、セッションの募集が、3 月 15 日から 4 月 30 日ということで公募がかかるようですので、今回、サウジまで行ってセッションをやっていただくのは大変かもしれませんが、ぜひ御関心を持って、テーマが決まってきたら、またセッションの検討をいただければと思います。

必ずしも IGF ということではないんですけれども、マルチステークホルダーのインターネット・ガバナンスという意味で、2014 年にあった NETmundial、これの 10 年後ということで、+10 という会合が今年 4 月に予定されています。これの準備をするための、名前が何だったか忘れてしまったんですが、ハイレベル何ちゃらかんちゃら（実行委員会）というものが組成をされていまして、先週金曜日の真夜中というか土曜日の未明にセッションがありまして。私はちょっと寝坊して途中からしか入れなかったんですが、前村さんはいらっしゃったんじゃないかと思うんですけれども。これでまた、NETmundial から 10 年たっていろいろ振り返って、マルチステークホルダーのインターネット・ガバナンスをまた再エンパワーしようということじゃないかと思いますが、今年、ブラジルは G20 の議長国でもあり、NETmundial+10 を主催するというのもあって、非常に期待をしています。ぜひこのマルチステークホルダーの議論を G20 にも持ち込むべきだというふうにブラジルにも言っていますし、彼らも多分そのつもりじゃないかなと思うんですけれども、ぜひ積極的に御参加いただければと思います。

今のところ、コミッティーのほうでプログラムとかをどう進めるかを議論するのかなと思いますが、もう 4 月末なので、あつという間に来ますので、私も十分フォローしていないんですけれども、ぜひ御関心を持っていただければ、ちょっと遠いですが、オンラインもあると思いますので、御参加を検討いただければと思います。

あちこちばらばらですけれども、私のほうから以上です。

【加藤】 どうも飯田様、ありがとうございました。いろいろなことを教えていただいたわけですが、皆さん御質問ございませんでしょうか。

飯田様。CSTD の意見募集へのコメントということですが、これは日本として取りまとめをされるという感じですか。

【飯田】 いや、これは多分マルチステークホルダー・コンサルテーションなので、随時、各自で御入力いただいているんじゃないかと思います。政府としては、また別途 CSTD のほうでのインプットがありますので、特に皆様の御意見をまとめてというよりは、それぞれステークホルダーとしてどんどん意見を発信していただければと思っております。

【加藤】 ありがとうございます。そういう意味では、JPNIC さんは前からコメントをお書きになるとおっしゃっていましたが、CFIEC の財団も何かコメントすることを考えているというふうに理解していますので、日本からも幾つかコメントが出るのかなというふうに思っております。

前村さんがおいでになって、ちょうど、NETmundial+10、前村さんからは何かインプットいただくことはございますか。

【前村】 ありがとうございます。飯田さん、実は日本時間の土曜日の朝 5 時からというタイミングになってしまったんですけれども、High-Level Executive Committee というものが組成されまして、私も呼ばれまして、行ったら飯田さんがいらっしゃったというふうな感じで。このメンバーリストの在りかを私は知りませんで、私もちょっと遅刻したんですけれども、会に入ってみたらこういうふうな人たちがいるのかということが分かりまして、その中には知らない方もいらっしゃるんですけれども、知っている方の多くは信頼できるステークステークホルダーの論客でいらっしゃるので、ある意味安心をしました。

それで、人によっては、ブラジルは何をし始めるんだというふうな懐疑心を持って見る人もいて、実際、私も Technical Community の相談場所みたいところが某所にあつて、そちらでは、僕、NETmundial+10 やるようになったんだとか言ったら、私をブラジル政府かのように見立てて、おまえ何やり始めるんだとかと言われる人もいますけれども。

これは 2014 年の NETmundial もそうだったんですけれども、やり始めてみて、終わってみたら NETmundial ステートメントは他からも参照される非常にいいドキュメントが出来上がっていて、そういうふうな成果は、今からいいものを出すというふうなことになるんだろうと思いますので、その辺の観点では、信頼できる方々がたくさんいらっしゃる HLEC でどれだけのことができるのかというのを我々はやっていくというふうなことなんだろうと思います。

その中で、ただ、10年前に比べてちょっとスタートが遅いんですよね。10年前は、同じような4月29日とかそれくらいのタイミングでの会合の開催に対して、委員会が組成されたのが12月から1月。1月ぐらいだと思うんですよね。なので、ちょっと短い、この短い間で一体何ができるんだろうみたいなことを1回目の会合では言うのに終始していたので、これから状況は注視してというのが、私や飯田さんもですけども、コミッティーの中にいるので、きちんと組み立てていくように仕事していかなきゃいけないと思うところです。

私からは以上です。ありがとうございました。

【加藤】 どうもありがとうございます。前村さん、飯田さんへ御質問ございますか。今日は比較的皆様の静かな……。情報は豊富なんですけれども。もしあれば、後でも結構ですけども、お願いしたいと思います。

それじゃあ、次のアジェンダに移って、NRIの動きについてなんですが、今夜も何か予定されているようですが、河内さんか山崎さんからコメントいただくことありますでしょうか。

【山崎】 じゃあ、山崎から。

【加藤】 お願いいたします。

【山崎】 ではNRIの状況についてお知らせしたいと思います。共有見えていますか。

【前村】 デスクトップが見えています。Slackの画面が見えています。

【山崎】 これで見えていますかね。

【加藤】 はい、見えています。

【山崎】 今回は、加藤さんがおっしゃったように、今晚、2月の会合があるので、谷間なんです。前回と今回の間で特に会合は開かれてないんですが、前回、NRIの作業計画ということをお知らせしたかと思いますが、それが固まったというのがさっき来ました。これはその機械翻訳ですけども。

順番に行きますと、アジェンダとして、WSIS+20とGDCプロセスへの貢献を通じてIGFの進化を説明するとなっているんですが、NRIの議題として、WSIS+20とGDC、グローバル・デジタル・コンパクト、これを取り上げることができるということで、それへのアンケートを受け付けています

よ、そのための会議も設けることもできますよということですね。ですから、ちょうどさっき話したようなことをほかの NRI でもというよう形になるんじゃないかと思います。

IGF の参加ということで、インターセクショナルなものとの連携の強化で、ダイナミックコアリセッションとか議会トラックとの相乗効果、NRI のコーディネーターがほかのセッションに参加といったインターセクショナルなインプットへの貢献ということを継続してやればと。

NRI のセッションについては、地域レベルでの関与強化ということで、これは毎年やっていますけれども、IGF の会合で NRI のコーディネーションセッションをやるということです。今年の IGF 2024 でもそれをやるということになったと。

リモート・ハブです。その認知度向上ということで、これは日本ではあんまり必要性は感じられないのかもしれませんが、回線が細い途上国とかでは非常に有効な手段で、実際、京都の IGF を見ても、アフリカだったり南アジアだったりの国々からリモート・ハブで結構積極的に参加しているのを見ることができました。

あとは MAG です。河内さんが所属なさっているマルチステークホルダー・アドバイザー・グループ。これとの関与を強化するというので、1 月の NRI の会議では、早速、MAG の議長がゲスト出演してくれたということです。

次はコミュニケーションの強化ということで、NRI へのグッドプラクティスを公表するメカニズムを構築というふうになっています。

政府の関与で、これは今月の課題になっているので、NRI のプロセスに政府を関与させる方法に関するグッドプラクティスを作業文書に反映させるということで、総務省の方々はひょっとしたら興味があるかもしれませんので、今日の会議の結果で興味あることがあれば、共有できればと思います。

最後、サステナビリティということで、NRI の経済的なサステナビリティを確保する方法について議論するというので、これは 3 月ですね。だから、3 月の会合では、それに関してもし出てくれば、皆さんと共有したいと思います。

そんなところですよ。以上です。

【加藤】 どうもありがとうございます。いつも夜遅くの会議に参加いただいて、お疲れさまでございます。山崎さんへ何か御質問ございますか。特になければ次に移りますが。

これ以外にも、例えば、8月のAPrIGFの関係とか9月のSummit of the Futureの関係とかで、何かいらっしゃる方で情報をお持ちであれば、共有いただければと思うんですが、いかがでしょうか。GDCとかですね。特にそれもございませんか。今。

【山崎】では山崎から。GDCは先週12日、13日にインフォーマルなコンサルテーションが開かれまして、12日は政府とオブザーバーだけ、13日は幅広いステークホルダーからというふうになっていまして、なぜか政府のほうは国連のサイトで録画を見られるんですが、13日のほうはそういうのがなくて、逆じゃないという気もしましたけれども、12日のほうではもちろん日本政府の方が報告なさっていて、IGF 2023についても触れられていました。

13日のほうは、インターネット・ソサエティーですとか、あと、IGF 京都をやったときに、Day -1で立石さん、京都コンピュータ学院とJAIPAさんが共同で開催なさったサイドイベントにお越しになっていたWolfgang Kleinwachterさんなどが報告なさっていました。1人3分で、3分たったら強制的に切られるという、結構な方がそれに引っかかっていましたけれども、皆さん言いたいことを言っていたという感じですかね。

次は、2月29日に2回目の非公式コンサルテーションが、こちらはまた政府とオブザーバーのみで、3月1日に幅広いステークホルダーが発言できる会議というのがあり、3月8日【誤り、正しくは3月8日まで意見募集で、4月5日】にグローバル・デジタル・コンパクトのゼロドラフト、草稿の一番初期のやつが出てくる予定となっています。その辺資料にまとめられたらよかったですけれども、後で送っておくようにしたいと思います。

【加藤】どうも山崎さん、ありがとうございます。GDCについても、いよいよ少しだけ片鱗が見えてくるというタイミングになったということですね。

【山崎】はい、そういうことだと思います。これは飯田さんから共有いただけたと思いますけれども、9月に未来サミット、Summit of the Futureというのを国連がやりますので、どうもそれを見ていると、我々に関連しそうなのは、ほぼGDCそのものが取り扱われるようですので、GDCが固まればどういふ議論がされるかが見えてくるんじゃないかという気がしています。

【加藤】ありがとうございます。この点についても飯田さんから追加、御存じであれば、何かコメントをいただくことはありますでしょうか。

【飯田】我々もあんまりよく知らされていないんですが、Pacts for the Futureだったかな、9月の未来サミット、国連総会ハイレベルウィークで開かれる未来サミットの中で未来の核となるものができて、

その附属文書みたいな形でこの GDC が採択されるという形式だと聞いています。そこを目掛けて GDP のコンパクトの、今、ゼロドラフトを待っている状態ですけれども、ここまでインプットしたものや、まだインプットの機会はあると思いますが、ゼロドラフトが出てきたら結構短い、1 か月ぐらいでドラフティングの折衝をして、最終的には夏ぐらいまでに固めて 9 月に出てくるというような運びで聞いていますので。

去年は結局、未来サミット自体が流れたというか、前哨戦的な会合はできなかったということで、今年どうしてもやらないといけないんだと思いますので、この GDC を今年サミットで策定すると、これがベースになって来年の WSIS+20 の見直しにつながっていくというふうに考えています。ここは各国とも非常に重要な文書になるということで、それもあって先ほどの WSIS+20 の PoC というのをつくって、G7 でもこれに協調して対応していこうという話をしておりますので、ぜひこれもマルチステークホルダーで対処できればと思っていますところでは。

**【加藤】** ありがとうございます。いよいよ、いろいろなものがつながりながら出てきたというタイミングだと思います。重ねて申し上げますが、御質問よろしいでしょうか、皆さん。

それじゃあ、こういう議論は取りあえずここで終了にさせていただいて、残る時間、まず、この活発化チームの今後の議論について、現状の御報告や御意見、御審議をいただきたいというふうに思います。

ここに前回の議事録をまとめていただいたのがありますけれども、前回のこの活発化会議で、日本インターネット・ガバナンス協議会という仮称ですけれども、たたき台を皆さんで御議論いただいて、おおむねこのたたき台の方向性について御賛同が得られたというふうに思っています。その後、コメント期間と 7 日間の最後のチェック期間を経て、現在、おおむねたたき台の内容で御了承いただいたという段階になっていると思います。

それから、前回の会議で、具体的な協議会を法人化するに当たっていろいろな手続的なことがあるので、ぜひ皆さん法人化の準備委員会を成立するので参加してくださいというふうをお願いしたところ、12 人、13 人ぐらいですかね、の方が手を挙げていただきまして、第 1 回の準備委員会を 2 月 8 日の木曜日に開催いたしました。

この 2 月 8 日で交わすと、いろいろな当面やるべき作業について議論をし、次回はあさって水曜日、21 日に 2 回目の準備委員会をやるということで、かなりハイペースで作業が進み始めております。

ここに書きましたとおり、一般社団法人として基金を基に法人化をするということで、いろいろな手続的な例えば定款を作成するとかそういう作業がございまして、皆さんにお伺いして、いろいろそういう作業をお手伝いいただける弁護士先生を御紹介いただけないかというお話をしたんですけども、幸い、いろいろな方と御相談をさせていただいて、今この時点で参加者の中に名前を拝見しているので、ひょっとするとお声が聞けるかもしれませんが、根岸先生という内田・鮫島法律事務所という有名な事務所の先生に名のり出させていただいて、現在、根岸先生にいろいろとお手伝いいただきながら作業を始めたというところでございます。

根岸先生はこのインターネット・ガバナンスの問題に大変御興味があつて、実は最近になって初めて知ったんですけども、根岸先生は去年の10月のIGFの京都會議にも御出席されたということでございます。今、チャットで発言できない状況ですということですから、今回もしお時間があれば御挨拶だけでもというふうに申し上げたんですが、私の理解では根岸先生は今新幹線の中だということで、つながっているようですが、聞くだけは聞けるかもしれませんが、先生のほうから発言いただくことは難しいかなというふうに思っていました。今、チャットで発言いただいたとおりでございます。

先生とお話をして、第1回の準備会合で、その日は全部で11人御出席いただきましたが、いろいろ関連する法律の要請とかを伺って、根岸先生に、3月末を希望していますけれども、法人化の作業のいろいろな手続をスタートしていただいております。先生のほうで定款をつくっていただいて、それを最終的には登録するというところまでお願いするというところでございます。

先生には、こういうことを決めないといけない、こういう作業が必要であるということ、リストを作ってください、それらを我々準備委員会の中でお答えできることはお答えする。最終的には、重要なことについてこの活発化会議でも御了承いただくということを考えております。

この後、二、三、そういう点についてお話をしたいと思いますが、根岸先生のほうには、まず定款を作成して会社を設立すると同時に、それに関連して必要となるようなこの会議のルールとかそういうものを、一応法人としてきちっとした体制を取る必要があるんで、いろいろと法的な書類も準備していく必要があるんで、その辺のものについても御相談をするというふうをお願いしております。

そういう前提で、二、三、次、具体的なことに触れたいと思いますが、ここまでのところで何かの御質問とか御意見ございますでしょうか。同時に、準備委員会で御協力いただいている方で何か補足いただくことがあれば、ぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。特にございませんか。

今日は非常にスムーズにミーティングが進んでいるような。内容は豊富なんですけど、スムーズに進んでいるような気がします。特にここまでよろしいですか。

では、この準備委員会の中で1つ議論しているのが、まず、この一般社団法人を設立するとして、社団法人の名前、一番顔になるので、これはぜひこの活発会議の皆様にも御意見をいただきたいということで、私はメールでもそれをお願いしていたんですけども。

現在、候補として挙がっているのが、ここに仮称としてありますとおりの「日本インターネット・ガバナンス協議会」。これは「Japan Internet Governance Council」または「Conference」というような英語の名称も同時に非常に重要になると思いますので、そういう案が1つです。

もう一つ、準備委員会の方からあった案で、「Conference」とか「Council」ではなくて「Dialog」はどうかというのがございました。「Dialog」を日本語の部分はどうしたらいいのかということもあって、例えば、「日本インターネット・ガバナンス懇談会」とかいうふうになるのかなと思います。

この辺、根岸先生に書類を作っていただくに当たって、今後いろいろな書類の一番基礎の基礎になりますので、ぜひ、今日この場ですぐ決めることはなくても、早々に名前だけは決めていただきたいというふうに思います。ということで、今挙がっているこの辺りの案について、何か御意見ございますでしょうか。

「ガバナンス協議会」は「Council」、あと、懇談会のほうは「Dialog」というのをここちょっと書いていて、「Conference」も協議会の場合、英語名ではこれに当たるかもしれないですが、「懇談会」というのは「Dialog」というのがそれかなというふうに思っていますが。この辺りは今名前の候補が出ておりますが、いかがでしょうか。

今後、NRIとしてこの法人を登録し、海外にもこの名前で発言していったり意見表明をしたりということが出てくると思いますので、皆さんの使っていただく名前でもあり、非常に重要なものかなと思います。御意見ございますでしょうか。

私の印象では、最初に戻って恐縮なんですけど、「インターネット・ガバナンス協議会」、「Japan Internet Governance Council」というのが比較的賛同者が多かったかなという印象があるんですけども、いかがでしょうか。

名前を勝手に挙げさせていただくと、前村さんとか立石さんとかずっと参加されている方はいかがですか。前村さん、いかがでしょうか。

【前村】 大変恐縮なんですけれども、ネーミングの神が下りてこないかとずっと待っていたんですけども、下りてきてなくてですね。

印象だけちょっと表明させていただきますと、「Council」と言うと何か決めそうな感じがして、決めないことが売りの IGF 活動に合わないかななんて思いまして、そこは「Dialog」とか「懇談会」という言葉がここに出てくるのは変かもしれないですけども、「懇談会」というほうは、話すんだよねというところが強調されている感じでいいかなというふうに思いました。

あとは、ネーミングの神様が降りてきたら、また何か考えると思います。

【加藤】 分かりました。日本語で「懇談会」というのが、団体の名前だとちょっと柔らかいなという御意見もあったんですが。

【前村】 そうなんですよね。

【加藤】 英語のほうは、「Dialog」というのは割とピンと来て、そういう会というイメージは割とあるような気がするんです。そういう意味で、最初に御提案いただいた方は、「Dialog」を御提案いただいて。準備委員会でもですね。日本語はといったところで捉えていて、もしそれを当てるとしたら、「対話」とか直訳だとそうなるんですが、「対話」はちょっと法人名には不向きかと思うので、例えば「懇談会」とか「懇話会」とか、そういうふわっとした名前になるのかなと思ったんですが。

これも1つの方向性だと思いますが、いかがでしょうか、皆さん。

【立石】 立石です。御指名だったので。私も EuroDIG が「Dialog」なので、私も「Dialog」はいいと思うんですが、日本語を私も考えているんですが、ちょうどいい日本語がないけれども、あんまり「対話」ということにこだわらなくて、直訳的にならずに日本語を考えてもいいのかなと思いながら、すいません、悩んでいて。英語名は「Dialog」がいいかなと思っています。

【加藤】 分かりました。日本語のほうは「懇談会」とか「懇話会」か、むしろ日本語は「協議会」のままにするとか、その辺いかがですかね。

【立石】 私の「協議会」のままでもいいかなと思っていますけれども。

【加藤】 「協議会」だと、そこで決めるというニュアンスが若干は少ないかもしれないですが、「Council」よりはですね。いかがでしょうか。

最終的には、山崎さん、投票しますかね。上位2つ、日本語と英語と2つずつぐらいを取って。

【山崎】 必要なら作りますよ。投票。

【加藤】 いかがでしょう。ここに出ている英語以外で何かいい英語、ここに出ている日本語以外で何かいい日本語名があればお伺いしますが、なければ、例えば、1週間後に、英語、日本語それぞれ3つずつ今出ていますが、この中で一番希望するものを投票していただくとかいうのはいかがでしょうかね。

タイミングとしては、できれば3月頭ぐらいには決めたいということで、今からそういう手続に入ると3月の第1、2週ぐらいかなという気がしますので、もしお許しいただければ、ここに出ている3つと3つの前提で、ただし、あと1週間だけ別の名前の御提案を受け付けて、1週間後にそれらを基に投票していただいて、多い順で日本語、英語名を決める。日本語、英語名、これはどれを取ってもそれほど翻訳との関係で違和感がないという前提で上位から決めるということでいかがでしょうか。今のお二人以外。

京都情報大学院大学の今井様もお名前を拝見するんですが、新鮮な目で御覧になって、いい名前とかございませんでしょうか。いきなり振って恐縮ですけれども。

【今井】 いいえ。京都情報大学院大学の今井です。今ちょっとお話を伺っていて、名前ですけれども、「協議会」というのがしっくり来るのかなという気はします。

【加藤】 ありがとうございます。なかなか、準備会でもかなりいろいろな御提案をいただいています。この辺に集約されつつあるかなと思いますので、取りあえず、7日間さらに追加の御提案をいただく期間を設けた上で、7日後には日本語3つ、英語3つの中から上位をそれぞれ決めていただくプロセス—もちろん、その間に追加があれば、それも含めて投票させていただくというふうにしたいと思います。

よろしいでしょうか。どなたか今発言されようとされていませんか。大丈夫ですか。

それでは、次なんです。これは御確認というか御了解をお願いしたいなと思うんですけれども、法人を、名前を決めてどこで登記をするかということで、これも準備委員会で御議論いただいたんですが、差し当たって、我々ボランティアベースでスタートするというのもあって、新たな事務所を設置するとかこのためにわざわざの名前だけの住所を契約するというのもなかなか不自然なところもあるので、もしお許しいただければ、いろいろなこれまでの事務局的な作業をしていただいている

JPNIC さんの御住所をお借りして、東京都千代田区にこの法人を登記させていただくという方向で考えたかどうかという御意見があります。

もしこの活発化チームでも御賛同いただけるのであれば、JPNIC さんの御住所をお借りして、まずは登記をする。活発化チームでも、いずれ資金も集まり事務所も借りられるように成長したら、その時点で登記の変更なり住所の変更というのは当然あり得るけれども、取りあえずは、これは郵便とかそういうものが、郵便というのは今の時代ほとんどないとは思いますが、登記地というのは東京都何々区というのが必要ですので、それを JPNIC さんの御住所をお借りして千代田区とさせていただくということにしたいと思いますが、いかがでしょうか、皆さん。

前村さんから何かこれもコメントいただくことありますか。

【前村】 JPNIC 中の議論としては、まず、法人化でどう考えるべきかみたいところで今いるところなので、ここは皆さんが、もし法人化というものがあって、そのときの登記住所というのをどこかにするのであれば JPNIC でよろしいということの御意向がいただけるということなのであれば、それはそれでいいんじゃないかと思います。

【加藤】 ありがとうございます。私の理解では、準備委員会もそういうことで、JPNIC さんのお名前を借りられるならお願いをしたいということだと思いますので、そういう前提で、これも JPNIC さんの住所をお借りして登記する前提で作業するというをここで御了承いただいて、1 週間コメント期間をつくりたいというふうに思います。前村さん、それならよろしいでしょうか。

【前村】 承知しました。

【加藤】 ありがとうございます。

あと、以前からお願いしている発起人として、御覧になっていただいた……。立石さんからもありがとうございます。JAIPA さんもいろいろと御支援いただいている、キムラさんもお出になっていただいているので、JAIPA さんも 1 つの候補なんですが、山崎さん、前村さんがこうやって事務局的なことを常にやっていただくということもあって、千代田区ということではいかがかというのがより多い意見だったように思いますので、その方向でお願いしたいと思います。木村さんからもありがとうございます。

じゃあ、次、発起人といいますか、一般社団法人の場合は基金の供出ということだそうですけども、定款を登録するときに何人かのお名前が必要になるんですけども、これは今日決めるとかとい

うことではないですが、以前からお願いしているとおりに、ぜひJPNICさんとかJAIPAさん、並びに、今井様、勝手に申し上げてあれですが、京都情報大学院大学様のほうでも御検討いただいているふうに聞いておりますけれども、ぜひ設立に当たって登記簿に御署名をいただくという前提で、今後の検討、今日これで結論を出すということではないですが、御検討いただければと思います。よろしいでしょうか。

今井様もよろしいですか。そういう前提で。

【今井】 大丈夫です。

【加藤】 ありがとうございます。

【今井】 よろしくお願ひします。

【加藤】 よろしくお願ひします。

取りあえず、根岸先生とお話をして、こういうようなことが決まっていけばということで、主な点をこの活発化会議でも、委員会でも御了承いただいて、作業を引き続き進めたいと思います。最初に申し上げたとおり、あさって、第2回目の準備委員会があって、会社設立に当たって必要最小限こういうことがリスト化されるというのを根岸先生からいただくことになっておりますので、それを見ながら、もしこの活発化会議で御審議いただくようなことがあれば、ほとんどがもう手続的なことですので、そういうことはないと思いますけれども、もしそういうことが出てくれば、改めてメールなりの会議で御相談したいというふうに思います。

ここまで何か御質問ございますでしょうか。それ以外にも併せて、法人化の今後の動きについて御質問等ございますでしょうか。あと、準備委員会に参加されていらっしゃる方、参加されていない方も含めて、コメントがあれば頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

もし気がつくことがあれば、いつでも御質問を含めて御連絡いただければと思います。今日のところは御報告をするということを中心にさせていただきましたので、また改めて必要なことは今後御相談したいと思います。

それじゃあ、次に移らせていただくとして、今日の主な会議はこれで議事はほぼカバーしたと思います。本日の議論を受けたtodoは、引き続き、この準備委員会を含めて法人化について検討する内容で必要なことがあれば、活発化会議に御相談するということだと思います。それでよろしいでしょうか。次に移らせていただいて。これで本日のアジェンダアイテムは終わりなんですけれども。

次回の開催時期なんですけど、本来であれば4週間後の3月18日月曜日なんですけれども、できれば、今の法人化のためのいろいろな議論が進んでいて、また、準備委員会は結構活発に今後作業がありまして、ぜひ活発（化チーム）会議のほうで御了解いただくようなことが出てきた場合には、速やかにお諮りしたいというふうに思いますので、もしお許しいただければ、今回は3月18日ではなくて、3月11日の月曜日に前倒しさせていただきたいというふうに思います。

何もなければ短い時間で終わると思いますけれども、もし皆さんの御了解いただくなり御審議いただく必要があった場合のために、我々が今まだターゲットとしている3月末の手續に向けて、あまりぎりぎりになるよりも、少しお時間いただいて、3月11日の月曜日に次回開催させていただくということにさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか、皆さん。

【立石】 異議なしです。

【加藤】 ありがとうございます。

【前村】 11日ですよ。

【加藤】 同じ5時から。

【前村】 ICANN出張から戻ってきて、その日休みをいただいていたが。

【加藤】 すいません。

【前村】 できることをやろうと思います。

【加藤】 申し訳ありません。皆さんお疲れのところ。

本当にそういう意味で、今日もJPRSのお二人とか、どうしてもいろいろな会議に重なるとかというのをいろいろいただいております、本当に恐縮なんですけど、皆さん時間をできるだけ合わせるようにはいたしますけれども、さっき申し上げたとおりの理由ですので、前村さん、この1時間ぐらいだけはよろしくお願いします。

【前村】 どうにかしたいと思います。

【加藤】 それじゃあ、私のほうは、これで本日の議題は終了なんですけれども、何か追加で議題、コメントいただくことはございますでしょうか。特にございませんか。

それでは、本日もいろいろと御審議ありがとうございました。活発な動きの御報告と御議論で、かなり今日もインフォーマティブな会議だったと思います。大変ありがとうございました。並びに、法人化の準備委員会で御参加の方々、お疲れさまでございますが、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、本日の会議はこれで終了させていただきたいと思ひます。ありがとうございました。